

令和6年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(仙北市)

1 市の概要(人口 22,997 人)※令和6年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和6年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0園	0園	5園	3園	0園	0園	6校

その他:中学校5校、事業所内2園

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 日々の保育を参観して保育への助言を意識したいと考えているが、事務的業務に追われて保育者への寄り添いがうまくまわっていないと反省する管理職が多い。園内で保育者の質の向上に向けてどのような取り組みをしていくべきかが課題の一つである。また、育児休暇明けの0歳児の途中入園希望者や、個別での関わりが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も大きな課題である。</p> <p>(2) 幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育や授業参観後の協議への参加は、まだ充分とはいえない現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについて子どもの育ちの協議ができるように教育委員会と連携を図りながら体制作りをしていきたい。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

<p>「幼児教育の推進体制構築事業」を令和元年度から3年間実施し、当市の幼児教育における課題解決と内容充実化を図ってきたが、さらなる事業推進を図る。</p> <p>社会や保育の変革に対応し、教育・保育の質の向上、教職員の資質向上、園内リーダーの養成等は重要である。そのためには、教育・保育アドバイザーを継続配置することにより、市としての幼児教育推進体制を機能させ、本市の抱える教育・保育の課題解決に向けて一層の指導や支援を行う。</p> <p>また、当市の教育理念に基づき、未来に向けた人材育成するための教育を目標とした「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解に向け、教育・保育現場の意見を取り入れた取組の充実を図る。</p>
--

主な内容(3年間)

<p>1 教育・保育アドバイザーによる園の支援(園内研修、保育実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問による園内研修支援(研修方法、研修内容等への助言) ・保育支援(指導計画作成、保育の振り返り等への助言) ・園、個人からの相談への対応 <p>2 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園や保育者の課題に応じた研修会の実施 ・ファシリテーター研修会の実施(園内研修の充実に向けて) ・公開保育、実技研修(地域で学び合う体制作り) ・経験年数や職種に合わせた研修会開催 ・園長、副園長等の研修(会議)を実施する <p>3 小学校教育との円滑な接続に向けた研修(取組)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と子育て推進課との連携体制の構築(幼小接続の連携体制の強化) ・幼保小架け橋プログラム作成取り組みの実施 ・教育委員学校訪問に園長、保育士等も同行できるように調整を図る(継続)

4	<ul style="list-style-type: none"> ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加 ・仙北市合同研修会の実施（子育て推進課・教育委員会） <p>県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加 ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザー、他市アドバイザーとの相互研修情報共有 ・指導主事及びアドバイザーによる研修会等の情報共有により専門性の向上を図る ・幼小連携に関する研修会（公開保育・公開授業、協議） ・園・小学校の指導主事訪問（保育参観・授業参観後の協議に参加）
年度別重点	
令和4年度	園の課題を明確にしながらか指導援助を行い、育みたい資質・能力を視点にした保育実践の支援を目指す。
令和5年度	就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取り組みの強化に努める。
令和6年度	育みたい資質・能力を視点に幼保小架け橋プログラム作成の実施に取り組む。遊びの中の育ちや学びを園から小学校へつないでいけるような協議ができる体制の構築に努める。

4 令和6年度の具体

目的	
<p>令和元年度からの3年間の事業取り組みからステップアップし、下記の3点を目標として取り組む</p> <p>①幼小接続連携のための小・中学校訪問同行、仙北市合同研修会の日程・内容等を進めるために教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化</p> <p>②育ちや学びのつながりを意識したスタートカリキュラムの作成（幼小接続における連携体制の強化）</p> <p>③副園長がアドバイザー的業務を担えるように、ミドルリーダーとしての育成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育の質と専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> 県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。 「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。 ・幼小連携の強化 <ul style="list-style-type: none"> 当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。 	
実施内容及び実施状況(中間)	
1	<p>教育・保育アドバイザーによる園の支援</p> <p>(1) 事業の成果と課題を分析する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問による園内研修支援 ・園内研修支援（園の研修内容等への助言） <ul style="list-style-type: none"> （園内研修の課題、見直し、改善への助言） ・保育支援（指導計画作成、保育実践、保育の振り返り等への助言） ・幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」、乳幼児期に育みたい資質能力を視点にした保育の振り返りを実践する（継続） ・指導計画作成支援、実践の振り返りから「子どもの姿」「保育者の援助」「環境の構成」を考える。（継続） <p>また、初めて指導案を作成する保育者の振り返りを通して支援の仕方を工夫して関わっていくように努める。</p>

- ・園、保育者個人からの相談への対応（細やかな対応継続）
- ・特別支援への対応
- 2 専門性の向上のための研修の充実
 - (1) 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくりを強化する
 - ・園や保育者の課題に応じた研修会の実施
 - ・園内研修の充実に向けての研修会（ニーズ、内容を検討して実施）
 - ・公開保育（小学校、他園からの参加を呼びかけ学び合う体制作りをする）
 - ・男性保育士等、保育補助者研修会開催
 - ・キャリアステージに応じた研修等による人材育成
 - ・園長、副園長等の研修会（ニーズに合わせて実施）
 - ・他園の保育者に学ぶ（実技、読み聞かせ、情報交換等）
 - ・保護者支援研修会
- 3 小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実
 - (1) 部局間連携（教育委員会教育総務課・北浦教育文化研究所と子育て推進課）
 - ・教育委員学校訪問に園長等も同行できるように調整を図る（継続）
（小学校だけの訪問から中学校訪問も同行できるように調整を図る）
 - ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加
（園、小の年間交流計画、子どもの情報共有等）
 - ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（公開研究会を開催）
学び合う体制づくり、園・小学校への周知活動
 - ・幼小連携に関する研修会（継続実施）
仙北市合同研修会（園の公開保育を通して園と小学校の教諭等で子どもの育ちを話し合う）
 - ・小学校指導主事訪問、園指導主事訪問時の参加を推進
- 4 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成
 - ・県の幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加
 - ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザー、他市アドバイザーとの相互研修、情報共有
 - ・指導主事訪問に同行する
- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - 令和6年度第1回仙北市幼保小連携委員会（KNPブリッジ）
R6.4月26日（金）
参加者（小学校長、園長、子育て推進課、北浦教育文化研究所長）
 - ・仙北市の幼保小連携状況について 説明（子育て推進課）
 - ・仙北市幼保小架け橋プログラムについて 趣旨説明（教育員会：北浦教育文化研究所長）
 - ・情報交換等（小学校区）※KNP（キラキラ・ノビノビ・ピンピンな子どもを幼保小で育てる架け橋）
R7.2月17日第2回仙北市幼保小連携委員会（KNPブリッジ）
 - 仙北市幼保小架け橋プログラム作成について
教育委員会：北浦教育文化研究所長・アドバイザーで全小学校、園に周知のために訪問する。
R6.5月7日（火）（小学校5・園2）に周知
R6.5月9日（木）（小学校1・園3）に周知
R6.5月10日（金）（園3）に周知
 - 仙北市幼保小架け橋プログラム作成委員会
第1回作成委員会 令和6年8月20日（火）
開発会議①
 - ・市の重点に係る育みたい資質・能力の決定
 - ・仙北市架け橋期共通カリキュラム（試行版）作成

合同会議①

- ・各小学校区の子どもの実態を踏まえた育みたい資質・能力の決定

第2回作成委員会 令和7年1月8日（水）

開発会議②

- ・仙北市架け橋期共通カリキュラム（試行版）の修正等

合同会議②

- ・各小学校区架け橋期共通カリキュラム（試行版）作成
- ・仙北市合同研修会（学区で重点にしたいこと）の協議資料を参考にしながら協議決定する
- ・各小学校区の連携計画の作成をする

仙北市のカリキュラム作成の基本コンセプトについて（確認）

<作成の目的>

- ・架け橋期に子ども一人一人の学びや育ちをつなぎ、それを生かした指導をする。
今回作成するカリキュラムの実施により、子ども一人一人が自己発揮し、諸活動に意欲的・主体的に取り組み、自ら生きる力をつけていく姿勢を養うことを目指したい。

<内容について>

- ・園、小学校が自分たちのものとして実践し、いつでも改善できるようにしたい。

○教育委員会主催 学校訪問に同行する。

R6. 6月24日（月）	生保内小学校	だしのこ園副園長 保育教諭	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
	生保内中学校	だしのこ園園長	
	神代中学校	神代こども園副園長	
R6. 7月2日（火）	西明寺小学校	にこにここども園園長 5歳児担任	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
R6. 7月8日（月）	白岩小学校	白岩小百合保育園 副園長・保育士	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
	角館小学校	白岩小百合保育園園長 神代こども園副園長 角館こども園副園長 保育教諭 角館西保育園副園長 5歳児担任 中川保育園保育士	教育委員会・教育委員 子育て推進課課長 教育・保育アドバイザー
	角館中学校	白岩小百合保育園園長 角館こども園園長 角館西保育園園長 中川保育園副園長	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー

R6. 7月9日(火)	西明寺中学校 神代小学校	にこにこ子ども園園長 神代こども園園長 5歳児担任	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
	桧木内小学校	ひのきないこども園 園長・5歳児担任	
	桧木内中学校	ひのきないこども園 園長	

△教育員会主催の仙北市教育研究大会が小・中の研究テーマに園も一緒に取り組んでいくことを見据え、中学校への同行をお願いした。
中学校の授業や子ども達の実態を通して、仙北市のスクールビジョンにおいても校種を超えた連携を考えていく体制が必要と思われる。

R6. 8月20日(火) 第1回仙北市幼保小架け橋プログラム作成委員会

○幼保小架け橋プログラムについて作成委員会の作業内容等事前に園や小学校訪問を通して周知したり、紙面を通して知らせていたりしたことで進め方や会の趣旨が委員にも伝わり、今後、園と小学校で話し合いの中で進めていくことの理解を得ることができた。



○園の年間計画は、毎年見直して進めているが改めて5歳児の4期を見直すと全学年のつながりや発達に応じた経験が書き表されているか改めて考えるきっかけになった。

○小学校側では管理職が委員になったため、1年生の入園に向けての話し合い
高いレベルで捉えていることもあるのではないかという声が聞かれた。
園と小学校で子どもの実態を話し合いながら、小学校区で育てていきたい力を明確にしていくことが大事なことと思う。

<目指す子どもの育成に向けての話し合い>

R6. 11月8日(金) 仙北市教育研究会研究大会 (教育員会主催)

会場：仙北市立西明寺中学校

仙北市立西明寺小学校

テーマ：「問い」を発する子どもの育成

思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫

参加者 143名 (園7名、小学校71名、中65名)

○授業にICTが導入され、生徒の意見がすぐに教師のパソコンに反映され授業を進めることに大きな効果があることがわかった。生徒同士も違う考えにふれることができる良さが理解できた。
自分の意見を口頭で伝えることで、より明確に伝わると思うが口頭で発表することが苦手な生徒の表現方法としては有効的な方法のひとつであると思われる。

しかし、教師側も ITC だけに頼らず生徒自身がどんな状況であれ自分の考えや思いが話せる環境を工夫していくことの大事さを感じた。

△来年度、園を教育委員会の組織に位置付けることは、研究会の持ち方やテーマ等教育員会との連携の中での話し合いの必要性があり、園・小・中学校にしっかりと周知していかなければならないと考える。

R7. 1月8日(水) 第2回仙北市幼保小架け橋プログラム作成委員会

○10月に行われた合同研修会での学区の話し合いの資料も参考にしながら委員だけでなく、より多くの意見を踏まえて学区の目標を決定していくことで、より効果が得られると実感した

(2)「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

◇令和6年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（仙北市）

⑥派遣目標 計 施設/全21施設 179回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園：公立 3園 (34回) ・幼保連携型認定こども園： 私立 5園 (100回) ・その他の施設：（事業所内保育施設2か所 (0回) ・小学校：6校 (39回) ・中学校：5校 (6回)
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、8園 (23回) ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、8園 (23回) ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、8園 (14回) ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園 (33回) ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、11園 (14回) ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園 (8回) ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校 (76回) ・特別支援（特別支援に関する相談、面談等）（目標のうち、8園 (22回) ・その他（上記に分類できないもの）（目標のうち、8園 (10回)
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修は事前の準備、当日、事後の振り返りに入り園内研修で深めたいポイントを探るとともに振り返りの時間を保育者達と大事にしていく。 ・保育者等への指導を管理職からの実態把握で園のニーズに合わせて支援を考え、一人一人の保育の質の向上に努める。 ・小学校区の幼小連携の会議にADも出席できるように努めていく。学区ごとの連携の話し合いが子ども姿の情報のみでなく、子どもの育ちの話し合いになるような提示等をしていきたい。 ・仙北市の研修会で学んだ内容がいかにされている良さや課題を吟味し、保育者が主体的にやってみようというように研修内容を工夫していく。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

令和6年5月15日（水）乳幼児保育研修会①

目的：乳幼児の発達の特性を学び、講義・演習を通して日々の保育に活かせるようにする。

講師 秋田県教育庁推進課

幼保指導員 阿部 真理 氏

参加者（17名） 保育士、保育教諭等 15名、こども家庭センター2名

<参加者：アンケートから>

・三つの視点を意識しながら子どもの姿を見ていくことで育ちの読み取りが深まり、環境の構成や保育者の関わりも変わってくるのが演習を通してわかった。乳児にとって全ての出会いが心地よいものとなるためにも教材研究が大事なことであると学んだ。

子ども達にはいろいろな出会いがあることを考えると、身近な環境を意識していくことも大事にしたい。

・子どものありのままの姿を自分の想像で捉えがちだということに気づかされた。「～であろう」と想像しながら見る中で、大事な事実をたくさん見落とししていたと思う。子どもの姿を「見る」・「見取る」という大切さを考えさせられた研修だった。

・ねらいからはずれた名前のつかない遊びの見取りに考えさせられた。子どもが「したい遊び」より「させたい遊び」への関りが多くなっていたので、子どもが遊びの中で何を経験して学んでいるのか見ることの大事さを意識していきたい。

○講義の中で子どもの一つ一つの行動や表情、言葉からひも解いていくと本当におもしろく、普段の保育の中での「見る」ことや「捉える」ことが楽しみになったという保育に前向きな意欲

を感じたことは大きな成果であった。

○研修参加者の初めての試みとして、0～2歳児を初めて受け持ちになる保育者や、0・1歳児を担当することがない男性保育士等の参加を募った。

男性保育士等においては、特に0、1歳児の姿や行動を読み取りながら、保育を考える貴重な時間になったと思われる。

●動画を見取る演習では、遊びの場面や子どもの行動に動画の保育者はどのように関わっていったらいいのかという視点が強く、子どもの姿を事実として捉え、何を経験したり、どんな学びになったりしているのかということを見取ることが弱いと感じた。

△講師への質疑応答の時間が参加者に好評であった。

他の保育者の質問を自分事として受け止め、講師の助言を受け持ちの子に重ねて捉えてくれた参加者が多かった。

これまではアンケート用紙に感想や質問等を記載してもらっていたが、直に講師からの助言が聞けることは保育を考えるうえで貴重な時間になると考えた。研修会での質疑応答の時間を検討したいと思った。



<グループごとに工夫された発表>

令和6年5月22日（水） 仙北市保育研修会（男性保育士等）

参加者（5名）

・各自の指導案を持ち寄り、指導案からの読み取りや現在の子どもの姿を話し合う。

○指導案作成の時にどんなところを悩んだり、困り感を持ったりするのかを話し合うことができた。他園の様式や記載の仕方を見ているいろいろな書き方があることを知り、保育のイメージの表し方が広がったと思われた。

△園訪問を通して管理職に伝えたり、保育者と話し合ったりしながら保育の思いを引き出していくことを工夫していく。

令和6年5月24日（金） ファシリテーター研修会

目的：園内研修（研究）の考え方や進め方を学び、保育者の資質の向上を高める。

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 佐藤伸剛 氏

指導主事 戸部俊和 氏

参加者（14名）副園長2名、保育士・保育教諭12名

<参加者：レポートから>

・今までは園内研修で自分の意見を出すことで精一杯だったが、今回学んだ進め方を意識して参加しようと思った。

園内の話し合いでは、実際の保育参観からの課題をどのように次回の保育につなげていくのか自分自身も学んでいく必要があると感じた。

・ファシリテーターとして多方面からの意見や課題を参加者全員がプラスに捉えられるよう意識しながら進めることで、良い雰囲気の中で子どもの更なる成長へつながるような協議にしていきたい。

・ゴールが見えなかったり話し合いが思うように深まらなかったりして困ってしまうことが多かった。

今回の研修では協議前の準備が大切なことや、困ったときは周りの意見を聞いたり助けってもらったりしながら進めていけばよいということ学んだので一人でなんとかしようと思わず、周りの力を借りながら進め学びを深められる協議ができるようにしていきたい。

○ファシリテーターの役割を理解し、学んだ参加者が多かった。ファシリテーターは、自分だけでなんとかしなければいけないという気持ちが強かったが、困った時はみんなから意見を出してもらいながら進めるという前向きな気持ちを実感できたようだ。

●ファシリテーターと記録者は協議前に話し合いのゴールを予想して進めているが、協議が始まると参加者一人一人の話の時間が長くなったり、方向性を確認したりして進めていくことが難しくなっている時がある。

付箋に書いた説明の時間を設定したり、要点をまとめたりしながら話すことを参加者にも意識づけることが必要と考える。

△園内研修では、子どもの語り合いのひとつとしてKJ法が多く使われるようになった。

職員みんながKJ法のやりかたを覚えることで話し合いも深まるという声があり、アドバイザーが演習の仕方を各園に伝えていきたいと思う。

令和6年5月30日（木）指導計画作成①

目的：指導案作成についての講義や演習を通して学びを深め、保育の質の向上を図る。

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 佐藤伸剛 氏

参加者（13名）副園長1名、保育士、保育教諭12名

<参加者：レポートから>

・保育者が楽しい、うれしい、気づき、発見を子どもたちと遊びの中で繰り返し実感し、日々わくわく感を持って子どもと向き合い遊びを楽しんでいきたい。そこから感じ取った姿をこまめに記録に残し変容、評価、反省をしっかりと捉えていきたい。

・ペアを組み今の子どもの姿について対話してみると、自分一人では気づけなかった子どもの姿の変容とその背景を分析することができた。このことから子どもの姿を様々な視点から見ることや保育者自身が育みたいことを見極めることが大切だと感じた。

○指導計画を立てる時に何に悩んでいたのか、講義を通して明確になった部分があった。今後の指導計画作成につながるヒントになった。

○自分が作成した指導計画に質問してもらった演習は、自分では捉えることができなかった部分を見つけ出したり、保育の意図について他の保育者に説明することができたりすることで手立てや援助を考える時に有効的であった。

△子どもの育ちをどのように記録に残していくか、まずは保育者自身がいろいろな視点から書き表して作成してみることが必要と思われた。

（年齢に応じて自分達書きやすいように週案、個別の様式を考え、そのうえで指導計画の用紙を検討してみることも大事なことであると思う）

令和6年5月30日（木）指導計画作成②

目的：指導案作成についての講義や演習を通して学びを深め、保育の質の向上を図る。

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 佐藤伸剛 氏

参加者（14名）園長5名、副園長7名、主査保育教諭2名

・同じ研修を現場の保育教諭と学び共通理解することで、今後の指導計画作成の向上に直につながっていくと感じた。保育者の意図と願いを保育の場に出向き、一緒に考え保育者の良さを十分認めながら子どもの育ちに直接つながる指導計画作成を目指したい。

・指導計画は、作成することが目的ではない。保育を支えるためのツールのひとつであるということを知り、今回の研修で学んだ。指導計画を見る立場になって、指導しなければという思いで作成重視であったことを反省した。

○管理職の立場から、指導計画を見直し保育の実践、振り返り、改善を園運営に活かしていきたい

思いを感じ取ることができた。

△保育者同士が話しやすい環境づくり、保育者一人一人が自己発揮しながら保育を実践してほしい等、管理職の立場で考える園の課題等へのアドバイスを継続できるようにしていきたい。

令和6年6月10日（月）仙北市保育研修会（実技研修会）

講師 聖園学園短期大学
教授 内藤 祐子氏

参加者（14名）保育士、保育教諭

<参加者：アンケートから>

- ・失敗しても大丈夫と笑顔で寄り添ってくださり、緊張がほぐれたり、ゲームを楽しんだりすることができたので保育の中でとても大事なことだと気づかされた。
- ・間違ふことがおもしろいと感じられるようなゲームを通して、一人一人が「できる」ではなく「やってみよう」と思えるような気持ちを育てていくことの大切さを感じ、普段の遊びや生活でも意識して保育をしていきたいと思った。

△失敗しても大丈夫。失敗するからおもしろい。あなたの失敗が〇〇につながっていくよというポジティブな保育者の接し方で、子どもの安心感が育まれていくと思う。子どもが安心して自分がやりたいことができることや、遊びの中で発した言葉が大事に受け止められることで子どもの意欲につながっていくことも大きいと思われるので「保育者の援助」として一緒に考えていきたいと思う。

令和6年6月28日（金）乳幼児保育研修会②

講師 秋田県教育庁幼保推進課
幼保指導員 阿部 真理 氏

参加者（20名）園長6名：大仙市2名、副園長8名、保育士等4名

<参加者：アンケートから>

- ・具体的な事例からの演習があり他園の先生達と話しをすることで、更にいろいろな見方ができて意識が変わっていくと思った。演習の準備や資料がわかりやすく、大変参考になると思う。
 - ・演習を通して「今の時期だから」「あのお母さんだから」「～の時間だから」とそのままにしたり当たり前前のことのようにしたりしてしまうのではなくどうして今なのか、どんなことを経験してほしいのか園内でも考えていく必要性を感じた。
 - ・遊びに対する援助や環境だけでなく、普段の園生活の中での関わりや言葉かけの大切さを改めて再確認することができた。自分の気持ちにもゆとりをもって子ども達と丁寧に関わっていきたい。
 - ・休憩の時間に講師と話ができたことが楽しかった。講師と直接話ができる距離感がよかった。
- 大仙市と仙北市の研修会にお互いに参加できるよう、市の体制ができたことが大きな成果になった。グループ協議では他市の意見を聞くことができ参考になることが多かった。いろいろな立場から保育を見つめ直すことは大きなことであると実感した。
- 「夏の自然」という環境との出会わせ方、食育の視点で「生活の質」を見直す等自分なりに考えたり、園で当たり前にしてきたことをグループ協議から「当たり前」を考え直したりできる講師の言葉掛けは管理職の立場を改めて意識する演習になった。
- △アドバイザーが保育者のニーズに応え研修会を企画する中、今後他市とも学び合える体制づくりが構築できるよう関わっていききたいと思う。

令和6年7月18日（木）仙北市保育研修会

目的：事例を通して乳幼児の内面理解を学ぶ

講師 聖園学園短期大学
教授 蛭田 一美 氏

参加者（14名）仙北市12名、大仙市14名

<参加者：アンケートから>

- ・蛭田先生の講義をととても嬉しく楽しみにしていた。目の前の子どもを「心の中はどうなっているのだろう」と見ていく大切さを自身の経験に頼らず、様々な研究のデータや政策について知り知識を持つことも大事であると感じた。

(大仙市保育士等)

- ・大仙市と仙北市の保育士がお互いの研修に参加できるように機会を設けられたということで仙北市の保育士と話す機会があり貴重な時間になった。研修の幅や学びの場が広がったことは、自分自身や園全体のスキルアップにつながるチャンスがあるのだと思った。学ぶことを楽しみ、保育現場で活かしていきたいと思う。



<子どもの姿、どう見る？>

令和6年7月29日（月）仙北市保育研修会（機中八策を学ぶ）

目的:機中八策の講義や演習を通して学びを深め、保護者支援の向上を図る。

講師 仙北市こども家庭センター

千葉 暁子 氏

藤田 麻子 氏

参加者（名）仙北市11名、大仙市9名、子ども家庭センター2名

<参加者：アンケートから>

- ・一見、マイナスに捉えてしまうような場面でも冷静になって伝え、褒めることが大事なことであると学んだ。子どもの好きなこと、喜ぶことを把握しておくということは、保育でも同じことであると思うので、一人一人を捉えながら褒めて成功体験を積み重ねていくことを意識していきたいと思う。

(大仙市)

- ・機中八策という言葉は初めて知ったが、内容を詳しく研修することができて大変勉強になった。

子どもの良い行動も悪い行動も子どもなりの理由があり、子どもと向き合うことでその理由が見え、子どもを知ろうとすることが大切ということを再確認できた。保育の中で意識していきたいと思う。

<事例を通して、言葉かけを考える>



令和6年9月10日（火）仙北市保育研修会（男性保育士等）

参加者5名

- ・公開保育の指導案を見て、保育者の思いを聞いたり、意図して保育していることを聞いたりする。

大仙市研修会に参加

令和6年度 就学前・小学校大仙地区合同研修会

令和6年8月6日（火）

(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

地区別幼小連絡会に参加する

令和6年4月24日（水）仙北市立神代小学校 授業参観

神代こども園：副園長、5歳児担任

令和6年5月14日（火）仙北市立角館小学校 授業参観

	角館こども園、角館西保育園、中川保育園、白岩小百合保育園 神代こども園
令和6年5月14日(火)	仙北市立西明寺小学校 にこにここども園：副園長、5歳児担任、4歳児担任
令和6年7月2日(火)	仙北市立西明寺小学校・にこにここども園
令和6年11月7日(木)	仙北市立西明寺小学校・にこにここども園(1年・5歳児交流)
令和6年12月2日(月)	仙北市立生保内小学校・だしのこ園(1年・4,5歳児交流)
令和7年1月9日(木)	仙北市立角館小学校・角館西保育園(小学校保育体験)
令和7年1月28日(火)	仙北市立角館小学校・角館西保育園・角館こども園
令和7年2月6日(木)	仙北市立角館小学校(入学説明会)5歳児・5年生交流
令和7年2月7日(金)	仙北市立神代小学校(入学説明会)5歳児・5年生交流
令和7年2月12日(水)	仙北市立生保内小学校(入学説明会)5歳児・5年生交流
令和7年3月3日(月)	仙北市立生保内小学校・だしのこ園
令和7年3月5日(水)	仙北市立神代小学校・神代こども園
令和7年3月19日(水)	仙北市立角館小学校・角館西保育園、白岩小百合保育園 角館こども園、中川保育園
令和7年3月24日(月)	仙北市立西明寺小学校・にこにここども園
令和7年3月26日(水)	仙北市立生保内小学校・だしのこ園
R6.10月16日(水)	仙北市合同研修会
参加者143名(園28名 小学校17名 教育関係者10名)	
○園と小学校の先生で同じ保育の場面を見て子どもの姿や育ちを協議することを重点にしていたが、小学校の先生からは(子どもたちの遊びがたくさんあり、どの場面をみていいかわからない)(指導案には、たくさんの遊びのことが書かれており、小学校の指導案とは違うためどこを視点に保育を見れば良いかわからない)という感想があったことを踏まえ、今回は初の試みとして園と小学校の先生をペアにして当日の「ねらい」に沿った子どもの姿や保育の場面を伝えあった。 小学校の先生たちには、遊びの場での学びにつながる姿等を理解することができたと思う。 「ねらい」に沿った子どもの姿を小学校の先生に伝えることは、園側の保育者にとっては「ねらい」を理解しながら保育を語るというハードルがあがったと思われるがペアになり伝えている姿を見て、園の先生達も保育を見取る力をつけていると感じた。	
○子どもの姿、育っている姿、これから就学した後に〇〇の姿につながっていくと良い、またこのようにいかされていくというつながりをもった協議ができたと思う。	
●小学校の秋休みに合わせて合同研修会を開催しているが、小学校側から秋休みは貴重な休みであるという意見や協議時間が長いという声があった。園側からは、協議時間をもう少し長くしてほしいとの要望があり小学校や園での研修時間の違いが感じられた。 開催日や内容、時間等に関しては、今後検討していく課題の一つである。	
・仙北市こども家庭センター主催 <就学前児童に関する支援機関連携会議>(教育委員会・保健課・子育て推進課・市内園) 5/2、5/9、10/31(勉強会)、2/5、2/6	
・<どれみの会>仙北市で行う月2回の就学前児童の療育訓練事業 通年 講師 宮川 貴子 氏 年3回(音楽療法) 講師 日沼 郁子 氏 5/17、12/4、1/21、2/7、2/21 (アドバイザー参加)	
令和6年度教育専門監等による巡回相談	
秋田県立大曲支援学校	教育専門監 大川 康弘 氏
秋田県立大曲支援せんぼく校	教諭 佐々木 奈織 氏
仙北市教育委員会北浦教育文化研究所	総合学習アドバイザー 小林 千春 氏

- R6.8月2日(金) にこにこ子ども園
- R6.8月22日(木) 角館子ども園
- R6.9月17日(金) ひのきない子ども園
- R6.12月16日(月) にこにこ子ども園
- R7.1月16日(木) 角館子ども園

(5)「県との連携体制の充実」

- ・令和6年度 教育・保育アドバイザー連絡協議会
4/23、6/25、8/23、10/24、1/23
- ・令和6年度架け橋プログラム研修会Ⅰ(4/23)
- ・園長等運営管理協議会Ⅰ(4/26)Ⅱ(8/29)
- ・就学前教育理解推進研究協議会Ⅰ(6/13)Ⅱ(1/30)
- ・新規採用者研修会(6/18)
- ・就学前・小学校等地区別合同研修会中央地区(7/30)
- ・就学前教育推進協議会(11/22)

・市アドバイザーに学ぶ研修会

R6年9月13日(金)
はなさき仙北角館子ども園(4歳児公開保育)
仙北市保育研修会(男性保育士等)

- 他市町村のADから質問や感想を述べてもらったことが大変良い刺激になった。
- 男性保育士等で保育を参観し、保育者の関りや環境の構成、指導案作成について男性保育士等で話合えたことが貴重な時間と実感できたことや、研修会を主体的にやっていきたいという前向きな姿勢を感じた。



<課題を自分に置き換えて話し合う>

R6.10月8日(火) 大館市(大館市立扇田保育園)
R6.11月21日(木) 潟上市(潟上市立追分保育園)

- ・指導主事訪問に同行する。

要請訪問

R6.6月7日(金) 中川保育園
R6.7月11日(木) 角館西保育園 他園6名
R6.9月18日(水) 白岩小百合保育園 他園7名 小学校1名

幼保連携型認定子ども園訪問

R6.6月26日(水) 角館子ども園 他園10名 小学校1名
R6.7月3日(水) だしのご園 他園7名 小学校5名
R6.9月11日(水) ひのきない子ども園 他園6名
R6.10月30日(水) 神代子ども園 他園5名 小学校2名(協議参加1名)
R6.11月13日(水) にこにこ子ども園 他園7名 小学校2名(協議参加1名)

- 指導主事や幼保指導員の具体的な場面を捉えての助言は、アドバイザーとしてどのような支援をしていったらいいかを考えるきっかけになり、アドバイザーのスキルアップにつながっている。

○小学校区では、保育参観後の協議参加にもつながり、園での子どもの姿を具体的に話し合うことにつながっている、また小学校から見た視点と合わせて園で考えることができることは大きな成果である。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和6年)の成果と課題

<保育の資質向上に向けて>

○保育中の子どもの姿と保育者の関りを動画で撮影し動画の場面を通して保育者の関りや子どもの内面を話合うこと、また指導案の記録をエピソード記録として活用し保育者の環境の構成や遊びの中で経験していること等を話合いうこと等、各園で子園内研修を工夫して子どもの育ちを多方面から見て話合い、保育を深めようとする研修が見られるようになってきた。

公開保育や資料を提示している保育者とともに参加している保育者の見取りや保育を語る力がレベルアップされていると感じた。

園の研修テーマに沿って、話合いができる支援を心掛けていきたいと思う。

●園内研修の日程が重なってしまうことが多く、参加できないことが残念であったが、園の日程が第一と思うので、今後も園のニーズに合わせたアドバイザーの支援を考えていきたいと思う。

△要請訪問や認定こども園訪問では、他園が参加し保育の協議をすることで自園だけでは気づけなかったことに目を向けるきっかけになった。

しかし当日は、その園の職員が参加できずに公開保育の保育者と他園の保育者達との協議になってしまうことも多く、園の保育者たちが自分たちの保育を語り合えるような指導主事訪問の内容を考えていく必要があると感じた。

園にもそのような情報を提示しながら、指導主事訪問を通して自園の課題を深めるための内容等を一緒に考えていきたいと思う。

<仙北市の研修会について>

○6月から大仙市と連携してどちらの研修会にも参加できるように進めた。

演習を伴う研修会では、仙北市の園の保育者だけでなく大仙市の保育者とも話合う機会ができ保育の見取りが広がったという声を聞くことができた。実際に研修会に参加した保育者達から保育の質の向上につながる思いを聞くことができたことから、研修会が保育者の質の向上につながる大きな役割を果たしていると分析できる。

今後もアドバイザー同士の情報交換を大事にしながら、研修会を工夫していきたい。

●研修会は保育者の確かな学びにつながっていると思われるが、研修会の回数が多く仙北市で開催する研修会の日程、時間、内容等吟味していくことの大事さを感じている。

<幼小の連携について>

○園や小学校の子どもの姿の良さや課題を出し合い、学区で目指す子どもの姿を明確にすることができた。

○架け橋カリキュラム作成に伴い教育員会との部局連携が進み、アドバイザーの学校訪問も昨年に比べ訪問回数が多くなった。園・小学校の取組をつなぐ役割が一層求められアドバイザーに求められる支援を考えていきたいと思う。

△架け橋カリキュラムを開発するためには「やらなければ」という気持ちになるが、幼小でやらされ感で動くのではなく学区で目指す子どもの姿を中心に考え、園や小学校に架け橋期のカリキュラムが必要という意識を生むことが最も重要となることと考えていきたいと思った。